

VLED 第3回 2020 オープンデータシティ推進委員会

議事録

1. 日 時 平成 28 年 1 月 21 日 (木) 13:00~14:30
2. 場 所 TKP 赤坂駅カンファレンスセンター ホール 13C
3. 出席者 (敬称略)
 - 共同主査：越塚登 (東京大学大学院情報学環 教授)
 - 共同主査：中村伊知也 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)
 - 共同主査：井上由里子 (一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授)
 - 委員：仲伏達也 (株式会社三菱総合研究所 “ビジョン 2020”推進センター長)、
福野泰介 (株式会社 jig.jp 代表取締役社長)、不破泰 (信州大学 総合情報
センター長 教授)、森本登志男 (佐賀県 最高情報統括(CIO))
 - 社 員：KDDI、電通、日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本電信電話、
日本マイクロソフト、日立製作所、富士通、三菱総合研究所
 - オブザーバー：総務省、内閣官房 IT 総合戦略室、経済産業省
 - 自治体会員：世田谷区
 - 事務局：三菱総合研究所
4. 配布資料
 - 資料 1. 座席表
 - 資料 2. 出席者名簿
 - 資料 3. 地方創生に資するデータ活用プラン 進捗報告
 - 資料 3-1. 日本ユニシス (実証フィールド：横浜市)
 - 資料 3-2. 日本 IBM (川越市)
 - 資料 3-3. 信州大学 (塩尻市)
 - 資料 3-4. 福井県情報システム工業会 (福井県)
 - 資料 4. 総務省オープンデータシティ実証 進捗報告 (日本マイクロソフト/札幌市)
 - 資料 5. オープンデータシティに関する調査 中間報告
 - 資料 5-1. オープンデータシティ調査 中間報告資料
 - 資料 5-2. データ活用人材育成研修について
5. 議題
 - (1) 地方創生に資するデータ活用プラン 進捗報告 (4 件)
 - (2) 総務省 オープンデータシティ実証 進捗報告
 - (3) オープンデータシティに関する調査 中間報告
 - (4) その他 (次回開催日程案内など)

6. 議事録

(1) 地方創生に資するデータ活用プラン 進捗報告（4件）

【日本ユニシス（実証フィールド：横浜市）】

- 資料 3-2 を用いて説明。
- 実証実験の成果については、今までもできていたことがより効率的になり改善したのか、または、今まで出来なかったことができるようになったのか。
- オープンデータについて、中小企業にまで浸透していなかった。今回の実証実験により、横浜信金が中小企業に情報提供する際、効率的にデータを見せることが可能となった。
- ポータルシステムは一般に公開しないのか。
- 今回の実証実験としては公開しない。来年度から横浜市が地域ポータルサイトを構築する予定となっている。
- 最新データをポータルサイトに登録することは、手間になってしまうとが、RDF化するきっかけとなるか。
- メンテナンスが簡単になるので、自動化したいと考えている。
- 質的、数値的に良かったこと及び今後事業者を拡大していくうえでの課題を最終報告書に盛り込んでもらいたい。
- コンサルティングの際にオープンデータを使用して、向上した点や可能となった点などについて、実証実験前後での変化がわかるとよい。

【日本 IBM（実証フィールド：川越市）】

- 資料 3-3 を用いて説明。（日本 IBM）
- 最終的には、施設などの最適配置について検証を行うのか。
- 集約化するならこの施設よいかについてシミュレーションができるようになっている。最適化計算ツールでケースに応じて提示できる。
- バス停がここであれば良いという情報は、バスを利用しない人に聞かなければわからないので、情報収集するのが困難である。バスの利用率が上がるような取り組みに繋がればよい。
- 降りたバス停について、利用目的がわかるデータがなかった。今あるデータが、公共施設集約に向けたデータになっていない。自治体と民間で協働して目的に沿ったデータを一緒に作っていくことが重要である。また、公民館が終わる時間帯にバスがないなどの意見があったので、ダイヤ調整なども利用率を上げるうえで必要である。
- データ活用について、利用者の生の声から何が得られるか。データアナリストに求められる資質について示唆があれば教えて頂きたい。
- アンケート調査で、駐車場設備について車を止められないなどのフリー回答が、定量的な調査と結果が一致している。このようなことから、交通が問題点であると導きだせる。施設を良くすれば市民が訪れると考えられていたのが、実は、公民館は使いやすい場所や利用しやすい開館時間の方が重要であるということがアンケートからわかった。今までは担当者の勘で行ってきたことが、データとして証明できるようになった。データで説明できるようになり、庁内の説明がしやすくなったとの意見があった。
- 職員の育成・教育が全面にでているので、最終発表の時には、当初の目的について発表してもらいたい。もし、当初の目的とずれてきているのであれば、その旨を報告してもらいたい。

【信州大学（実証フィールド：塩尻市）】

- 資料 3-4 を用いて説明。
- 対象センサーはいくつあるのか。
- 土砂災害、鳥獣関係ともに十数台ある。
- 様々なデータがあると、機会学習を行うのに良い。高校生、大学生がアプリを作成する際に身近なデータがあると取り組みやすい。
- オープンデータイベントは実施したのか
- ICT 技術者養成のために、研修コースを準備している。サンプルデータではなく、塩尻市のオープンデータ、ビックデータを活用したデータマイニング研修を予定しており、その中で活用の検討している。

【福井県情報システム工業会（実証フィールド：福井県）】

- 資料 3-5 を用いて説明。
- エコシステムを構築し、持続可能な体制とすることを目的としているが、今後委託費がなくても続けていくことが可能であるか。
- 声をかけ参加してもらい、スマホアプリを作成するのが意外に簡単であることを体験してもらっている。今後、自主的な活動が盛り上がり、参加者がより増えていけばよい。まだ参加者の多様性が少ないので、成果報告とともに PR していきたい。
- 地方創生エコシステムをオープンアプリで構築する内容であるが、オープンデータがあるからエコシステム構築に貢献できたことはどのような点か。
- オープンデータは、自治体と民間をつなぐインターフェースだと考えている。福井県内だけで使えるアプリでは、ビジネスにならない。今回の実証実験で、取り組みが広がっていく感じを体感してもらうことができればよい。

(2) 総務省 オープンデータシティ実証 進捗報告

- 資料 4 を用いて説明。
- API について、SPARQL の提供がされていないが、今後の予定を教えてください。
- 現時点では、SPARQL での提供していないが、需要が高いのであれば今後検討したい。
- 外国人観光客を受け入れるために、一般の方や学生などを巻き込んで市全体としておもてなしをする機運を醸成できることがオープンデータのメリットである。いきなりオープンデータと言われても何やってよいかわからないので、その時にコソシルさっぽろが手本となる。オープンデータがあればこのようなアプリを作ることができると思うので、多くの人に参加意識をもってもらいたい。このやり方が成功すれば、2020 年の東京オリンピックに向けたモデルケースとなる。

(3) オープンデータシティに関する調査 中間報告

資料 5-1、5-2 を用いて説明。

(4) その他（次回開催日程案内など）

- 日時は 2/24 13:00-14:45 とする。

以上